

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



WEEKLY

なごや ちくさ

題字 黒野清宇

名古屋千種ロータリークラブ
 承認 1982年 8月24日
 例会日 火曜日 12:30
 例会場 愛知厚生年金会館
 事務局 TEL763-5110 FAX763-5121
 会長 山本 眞 輔
 幹事 吉田 玄
 会報委員長 池 森 由 幸

No. 19

率先しよう

LEAD THE WAY

2006～2007年度 RI会長 ウィリアム(ビル)B.ボイド

きょうの例会

第1159回 平成18年11月28日(火)
 友愛の日

先週の記録

第1158回 平成18年11月21日(火) 晴

◆“我等の生業”

◆出席報告

会員	59 (57) 名	出席	42名
出席率	73.68 %		
前々回	11月7日 (修正出席率)		98.21%

吉田幹事報告

1. 12月15日(金)年末会員家族会のご返事がまだの方は至急事務局までお知らせください。

山本会長挨拶

今年は暖冬で紅葉が遅れているようです。

昨日、京都の高尾を通りましたがまだ早いようで、しかし清水さんは夜間拝観で賑わっておりました。11月も半ばをすぎ、皆さん体調管理は大丈夫でしょうか？ 季節の変わり目です。お互いに気をつけて過ごしたいものです。

さて11月18日、19日の2日間、内外のロータリアン2800人が参加し、ウエスティンナゴヤキャッスルを会場に「2006～2007年度地区大会」が開催され、千種クラブからも多くの方に出席頂きました。

今日は後ほどその報告をしていただきます。

この地区大会でのロータリーミーティングが大変印象的でしたのでご報告いたします。

国際ロータリー第2740地区パストガバナーである佐古亮尊氏(大村北RC)が「ロータリーの森を行くークラブ奉仕について」というテーマで講演されました。僧侶であり哲学者でもある立場を踏まえ自分の宗教観をうまくロータリーの理念と結びつけて話されました。ロータリークラブの「奉仕」とは個人としての研鑽向上であり、他人のため、あるいは困っている人をただ支援するという事ではない、自分に何が出来るか、自分にしか出来ない事はなにかを見極めることが奉仕

の原点である。それが機会を得て世の中の、あるいは誰かの役にたつことが奉仕である。必要とおもえば積極的に参加することも必要であるが「奉仕」の押し付けはするべきではない。イタリアのミラノにスカラ座というオペラの劇場があります。ここでラ・ボエームが上演された時のことです。幕間にオーケストラの指揮者が急病になり指揮ができなくなってしまいました。音楽や演劇に理解のある洗練されたハイソな観客席もごわつきはじめました。その時、一人の男が客席から指揮台の上にあがり指揮棒を手にオーケストラに向かいました。そのあまりの自然な振る舞いにオーケストラは勿論、当然のことのように観客も続けてオペラ、ラ・ボエームを最後まで楽しむことができました。幕が降り万雷の拍手のあと、この客席から指揮台に上がった人がわかりました。トスカニーニでした。彼はオペラを楽しみに来ていました。どうしても必要な時、状況を見極め、自分にしか出来ない事をしたのです。彼の能力、才覚があってこそ出来た事です。これは我々ロータリアンに大きな示唆を与えてくれます。必要な時に世の中の役にたてることこれが奉仕の原点です。クラブ奉仕の原点でもあります。困っているひとの軒先に食べ物やお金を置いて帰るといのは奉仕活動になるのでしょうか「原点回帰」を各々の立場であらためて考えてみたいと思いますが如何でしょうか。

この講演の中身をどう受け止めるかは我々一人一人のロータリアンの自由ですが時代の流れとともに変わってゆくこと、いつの時代にも変わらないものを見極め「親睦と奉仕」というクラブの精神(こころ)をあらためて考えるきっかけにしたいと思いました。

クラブフォーラム

◆地区大会報告 萩原喜代子さん

私は、2日目午前中の会議の様子を、ご報告致します。

県立岡崎高校のコーラス部の合唱から始まり童謡「ふるさと、赤とんぼ、さくら、」最後に「最上川舟歌」で終わりました。

岡崎高校のコーラス部は数々の賞をとっていらっしゃるだけあって素晴らしかったです。

続いて齊藤ガバナーにより点鐘、「君が代」、ロータリーソングそして物故会員のご冥福を祈って黙祷。当クラブでは成田さんのお名前があり、改めて成田さん

のご冥福をお祈り致しました。

続いて一柳大会実行委員長より80年に一度しか訪れないホストクラブの榮譽に属し今会議を充実した内容にしたいのご挨拶がありました。

そして斎藤ガバナーから福井R.C宮崎RI会長代理のご紹介に続いて特別出席者の神田知事、松原市長、はじめ地区外のパストガバナーご夫妻、地区内のパストガバナーご夫妻のご紹介後、参加クラブの紹介。

地区内…2567名。地区外…31名に続き、GSE、ロータリークラブ財団、青少年交換婦国学生、並びに受入学生、米山奨学生、インターアクト、ローターアクト、新世代ライラ友の会の紹介がございました。

続きまして斎藤ガバナーのご挨拶では地区の現況報告は時間の関係で詳しくはHome Pageを見て下さい。ということでした。会員数は9月現在で5244名(95名増)で会員数では一応日本一だそうです。

続いてRI会長代理宮崎さまのご挨拶があり、クラブでのご説明がございましたが、会員数は前年度より世界で1万3,202名の減少。そんな状況の中で女性会員の増がみられるということでした。

続きまして斎藤ガバナーより愛知県に200万円、名古屋市に100万円の目録贈呈があり、神田知事より今流行言葉に勝ち組、負け組と分類された言葉がありますが今の愛知県は社会奉仕に関する教育、環境、国際の面において元気が良いと思う。

昨年の万博に対してはR.Cの多大の貢献に感謝を頂きロータリー館で開かれた例会は200回、2万人の会員が参加され、ロータリー館は来場者に人気があり5万人の来館者があったこと。

そして文化振興として平成13年より毎年の寄付のお礼の言葉を頂き“地域の文化の向上”に有効利用して頂いているとの事でございました。

続きまして松原市長から先ごろ姉妹都市のイタリトリノ市開催の「食の祭典」を訪問された時のお話で地域の食材の紹介をテーマとした内容で、名古屋も食材を通して地域全体をのばすことの大切さをお話しされました。

又、トリノの街の石畳はその上からアスファルトを敷いていたが、今はそのアスファルトをはずして石畳を復活させようとしているそうです。

それから贈呈されました100万円は名古屋城本丸御殿の復元に使わせて頂くとの事で、本丸御殿は木曾の白木を使いそしてその後白木の苗を植え200年後に育った木をまた使う。というお考えをご披露されました。

続きまして大きな貢献をされたクラブへの感謝状授与があり、最後に祝電の披露があり午前中の会議を無事終えました。

地区大会報告 三好 親君

今年度地区大会は81クラブ2600名の登録で開催され、2日目の記念講演として、日本経済連名譽会長の奥田碩氏の素晴らしいお話が約1時間30分ありましたので少し報告致します。

まず、お話の前に本来講演者は柔道の山下氏の予定でしたが、講道館の柔道大会が重なり山下八段と奥田六段との非常に親しい間柄で代理を引き受けました。との報告に会場が沸きましたが、表情を変えることなく本題に入られました。

『世界の現状と日本の針路』と題し、5つの項目を挙げられ

1) グローバル化

グローバル化により情報、人、物の往来が増え激しくなり、ブリックス諸国台頭に対する体制作りが急がれる、多様化する社会情勢を把握し的確な行動が望まれる。観光事業を取り上げるならば、世界で2010年には10~13億人が移動するだろうと思われるが、残念ながら、日本への観光客は外に出る人に比較して、半分以下の約670万程度である。観光事業という観点だけで捉えるのではなく、あらゆる産業に波及することを考えなくてはならない。

2) 人口問題

先進諸国共通の問題として少子化、逆にブリックス諸国の人口の増大、増々この現象が増す。その為、先進諸国は労働力の確保をどうするか真剣に考える必要がある、日本を例にすれば2050年頃には9000万人位になる。これは昭和30年頃と同水準であり、経済力維持の為の労働力不足を外国から受入れなくてはならない。例えば看護師(フィリピンより600~1000人)等々、反してブリックス諸国は安い労働力が増え増大する。早急に手をうたなければならぬ。

労働力不足を改善するには15~20年かかってしまう。

3) 技術競争の激化

新興諸国の技術発展は日本のそれとは違って、はるかにスピードが早い、この状況を認識し、産・官・学が一体となり連携して技術の発展を図る必要性大である。技術系学生は日本では概ね19万人、インドでは80万人、中国は200万人である。

この状況を真剣に考えて対処しなければいけない。

4) 資源と環境問題

化石エネルギーの取合いの中、代替エネルギーを早急に見付ける必要が大である。例えばウラン等米国ブッシュ大統領脱石油エネルギー戦略を発表、エネルギーの多様性を活かして、バランスのとれた石油に偏らないエネルギー確保が大切であり、エネルギー関連技術革新を推進すべき!!

5) 心の豊かさ

かつて、日本人は武士道精神を拠り所にして行動をしていたが最近では欠落しているように思う。

柔道家山下氏の言葉より「勝者への驕りではなく、敗者への思いやりを」日本人としての誇りと自信に満ちた文化を大切にしたい。

以上それぞれについて個人的思いも交えて淀みなくトツツと話され、それ故に余計に聞き入ってしまった。

◆ニコボックスは次回掲載させていただきます。

次回例会 平成18年12月7日(火)

講演

“大規模災害時に名古屋第二赤十字病院が果たす役割”
名古屋第二赤十字病院 副院長 石川 清様